

平成30年中の山岳遭難発生状況

平成30年中の山岳遭難は51件発生し、遭難者は61人で、そのうち7人の方が亡くなりました。

特徴として、

- 態様別では、遭難者61人中、「道迷い」が24人、「滑落」が18人
- 山域別では、発生件数51件中、鈴鹿山系が29件、台高山系が8件が挙げられます。

〈 発生状況 〉

区 分		平成30年	平成29年	前年比
発 生 件 数		51	57	- 6
遭難者数 (人)	死 者	7	3	+ 4
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	23	19	+ 4
	無事救出	31	54	- 23
	合 計	61	76	- 15

〈 鈴鹿山系発生状況 〉

() は御在所岳の発生状況

区 分		平成30年	平成29年	前年比
発 生 件 数		29 (10)	43 (17)	- 14 (-7)
遭難者数 (人)	死 者	2 (1)	2 (1)	0 (0)
	行方不明者	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	負 傷 者	14 (3)	17 (8)	- 3 (-5)
	無事救出	16 (6)	37 (10)	- 21 (-4)
	合 計	32 (10)	56 (19)	- 24 (-9)

〈 台高山系等発生状況 〉

区 分		平成30年	平成29年	前年比
発 生 件 数		8	5	+ 3
遭難者数 (人)	死 者	1	0	+ 1
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	6	2	+ 4
	無 事 救 出	2	5	- 3
	合 計	9	7	+ 2

〈 その他山系（山城）発生状況 〉

区 分		平成30年	平成29年	前年比
発 生 件 数		14	9	+ 5
遭難者数 (人)	死 者	4	1	+ 3
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	3	0	+ 3
	無 事 救 出	13	12	+ 1
	合 計	20	13	+ 7

● 態様別遭難者数

年	態 様							計
	道迷	滑落	転倒	転落	疲労	病気	その他	
30年	24	18	5	2	5	7	0	61
29年	43	16	4	0	10	1	2	76
前年比	-19	+2	+1	+2	-5	+6	-2	-15

● 年齢別遭難者数

()は前年比

項目 年齢	人 員		前年比	り 災 別 人 員				
	30年	29年		死者	行方不明者	重傷	軽傷	救助
0～9	1	4	- 3	0(0)	0(0)	0(0)	0(-1)	1(-2)
10～19	6	3	+ 3	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	6(+3)
20～29	2	9	- 7	0(0)	0(0)	1(0)	1(-3)	0(-4)
30～39	10	5	+ 5	0(0)	0(0)	3(+3)	0(0)	7(+2)
40～49	10	13	- 3	1(+1)	0(0)	4(+3)	1(-4)	4(-3)
50～59	5	23	-18	0(-1)	0(0)	1(0)	3(+2)	1(-19)
60～69	13	10	+ 3	1(+1)	0(0)	4(+4)	3(-2)	5(0)
70～79	14	7	+ 7	5(+5)	0(0)	1(+1)	1(+1)	7(0)
80～	0	2	- 2	0(-2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
計	61	76	-15	7(+4)	0(0)	14(+11)	9(-7)	31(-23)

● 月別発生状況

()は前年比

項目 月	件数	遭難者数				
		死亡	行方不明	負傷	救助	
1	3(+3)	4(+4)	1(+1)	0(0)	1(+1)	2(+2)
2	2(-1)	2(-5)	0(0)	0(0)	1(+1)	1(-6)
3	2(-3)	2(-4)	0(0)	0(0)	0(-4)	2(0)
4	5(-1)	5(-3)	2(+1)	0(0)	2(+1)	1(-5)
5	4(-6)	4(-8)	0(0)	0(0)	4(0)	0(-8)
6	4(-3)	4(-4)	0(-2)	0(0)	2(0)	2(-2)
7	3(-2)	4(-1)	1(+1)	0(0)	1(0)	2(-2)
8	7(+2)	10(+3)	0(0)	0(0)	3(+2)	7(+1)
9	2(-2)	3(-4)	1(+1)	0(0)	0(-2)	2(-3)
10	11(+8)	14(+11)	1(+1)	0(0)	4(+2)	9(+8)
11	6(-2)	7(-4)	0(0)	0(0)	4(+2)	3(-6)
12	2(+1)	2(0)	1(+1)	0(0)	1(+1)	0(-2)
計	51(-6)	61(-15)	7(+4)	0(0)	23(+4)	31(-23)

〈 山岳遭難防止のお願い 〉

- 登山届を提出しましょう
- 万が一に備えて十分な装備等を携行しましょう
- 通信手段として、充電された携帯電話と予備バッテリーを携行しましょう
- 自分の体力に見合った山選びをしましょう
- 単独登山は控えましょう
- 明るいうちに下山しましょう
- 引き返す勇気を持ちましょう

〈 鈴鹿山系を登山される皆さんへ特にお願いです！ 〉

三重県内での山岳遭難の多くが、鈴鹿山系で発生しています。

鈴鹿山系の山々はハイキング気分で登れる山ではありません。特に、御在所岳はロープウェイを活用し簡単に登れそうに思えますが、登山道はいずれも険しく、体力を必要とします。自らの体力、技術にあった山を選び、しっかりとした登山計画、装備を準備し、できるだけ、単独登山を避け、グループでの登山に心掛けましょう。



〈 山岳警備隊による訓練状況 〉